

第20期考古学セミナー

—古代から近世の木簡と木製品—

講義4

中近世の木製品と文字資料

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター

高桑 登 氏

平成30年10月14日（日）

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

第20期考古学セミナー『古代から近世の木簡と木製品』

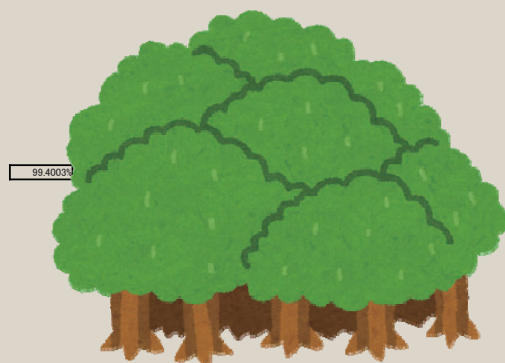
中近世の木製品と 文字資料

小田島城跡・亀ヶ崎城跡・米沢城跡

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター 高桑登

木製品の特徴（他の遺物と比較）

- 材料が身近にある
- 加工が容易
- 燃える・腐る
- 字が書ける
- 再利用可能



木製品が出土する場所

- 古代　：井戸・溝・河川
- 中近世：井戸・溝・河川・堀・整地層



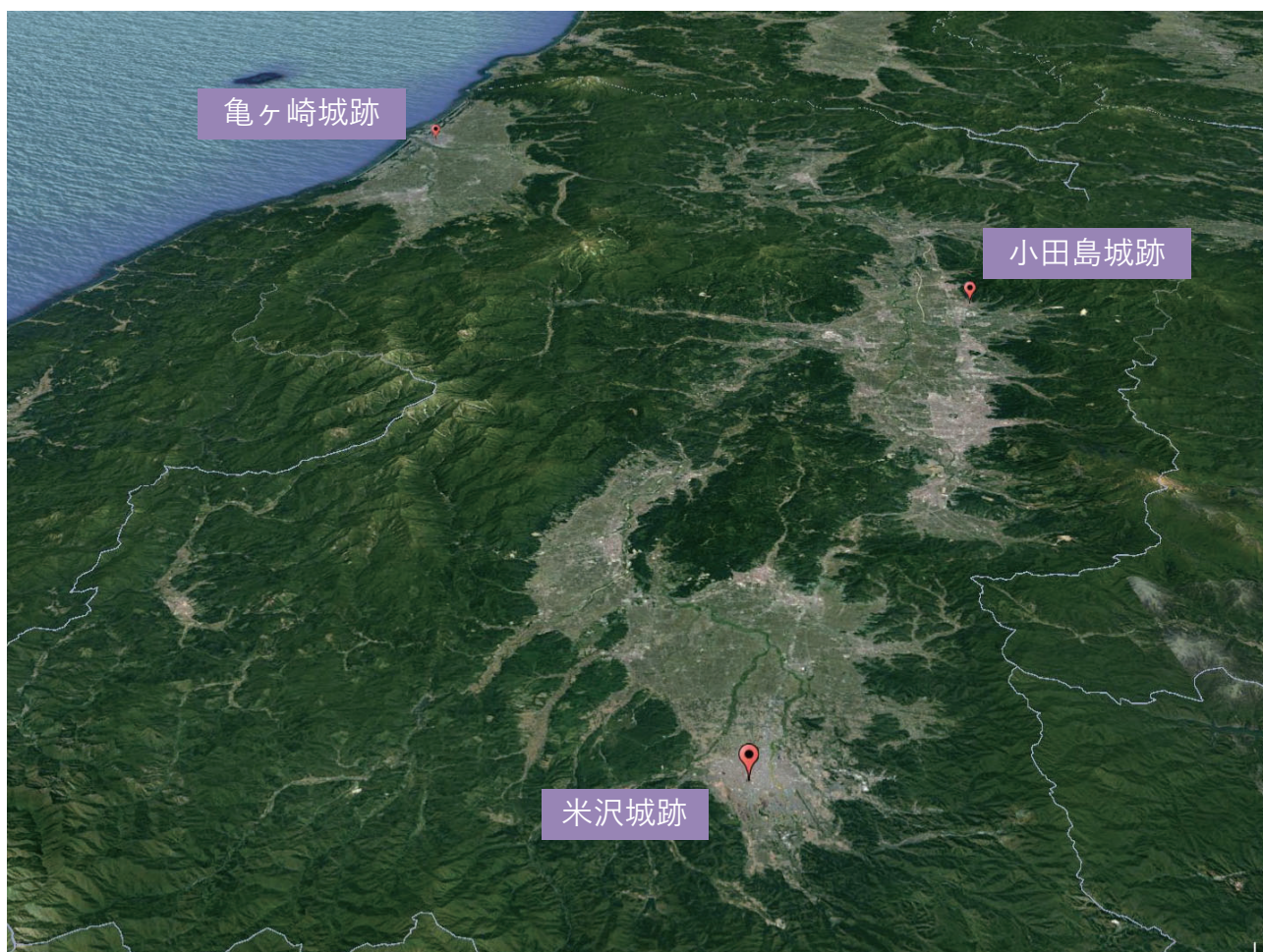
木製品の分類（生産・流通から）

- 専門の職人が作り広域に流通するもの
 - 漆器・曲物・下駄など
- ある程度の範囲内で作られ消費されるもの
 - 箸・農耕具・調理用具・建築部材など
- 自家用として作られ消費されるもの
 - 杭・棒状木製品など



中近世の木製品の特徴

- 中世
 - 漆器の普及
- 近世
 - 台鉋・大鋸の普及
 - 桶・樽の普及



小田島城跡



小田島城の空中写真（1997年撮影）



出羽国最上東根城絵図（1645年頃作成）

小田島城跡の歴史

- 正平2年（1347） 小田島長義によって築城か
- 応永2年（1395） 東根頼高が城主となる
- 天正12年（1584） 天童合戦後、里見景佐が城主となる
- 元和8年（1622） 里見氏が阿波国へ配流となる
- 寛文元年（1661） 廃城



小田島城跡の木製品

- 様々な文様の漆器
 - スタンプ文漆器
 - 鎌倉との関係
- 宗教的な木製品の出土
 - 呪符木簡
 - 形代
 - 城内の寺院の存在



亀ヶ崎城の歴史

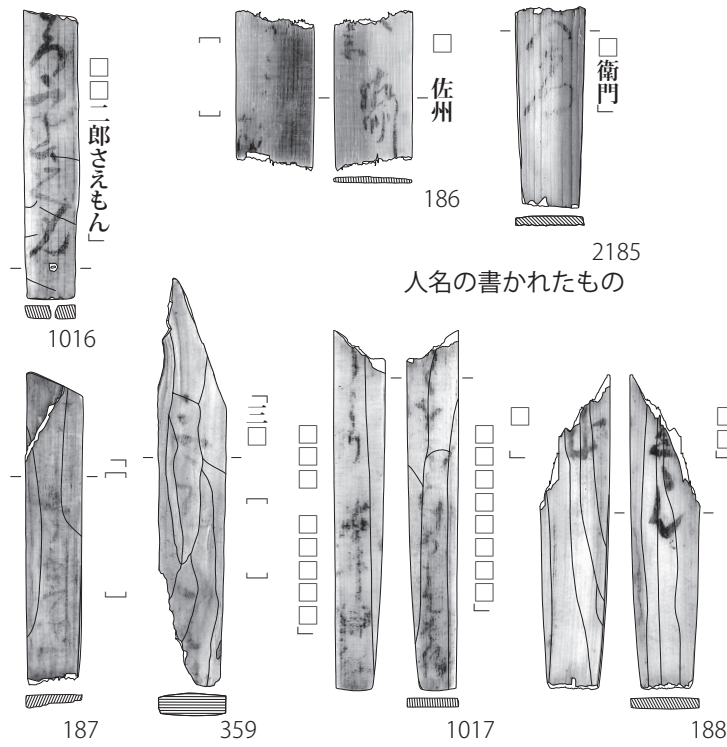
- ・ 文明10年 (1478) 遊佐太郎繁元が東禅寺城を築く。
- ・ 天正11年 (1583) 前森蔵人が城主になる。
- ・ 文禄2年 (1593) 甘粕景継が城主になる。
- ・ 慶長3年 (1598) 志駄修理亮が城主となる。東禅寺城の整備。
- ・ 慶長4年 (1599) 志駄修理亮が城郭を拡張。
- ・ 慶長6年 (1601) 最上勢による東禅寺城攻撃。
志村光安が城主となる。
- ・ 慶長8年 (1603) 亀ヶ崎城と改名。城下の町割り、整備。
- ・ 元和8年 (1622) 最上氏改易。酒井氏入部。



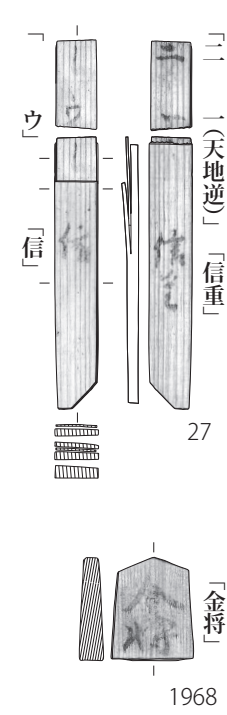
出土した木簡

- 36点の木簡
 - 専用品に墨書されたもの
 - 墨書と製品の機能が一体となって機能するもの
 - 荷札木簡（宛名・品名・日付）
 - 容器（内容物）
 - 遊戯具
 - 転用品に墨書されたもの
 - 墨書と製品の機能が直接関係ないもの
 - 折敷・樽蓋・板等

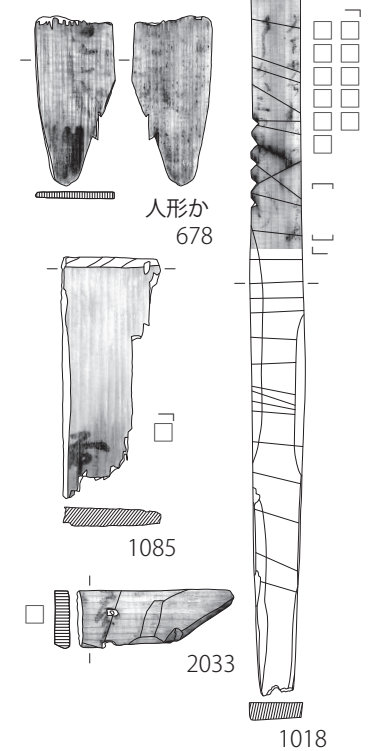
荷札木簡？



遊戯具



その他不明品



転用品に墨書したもの

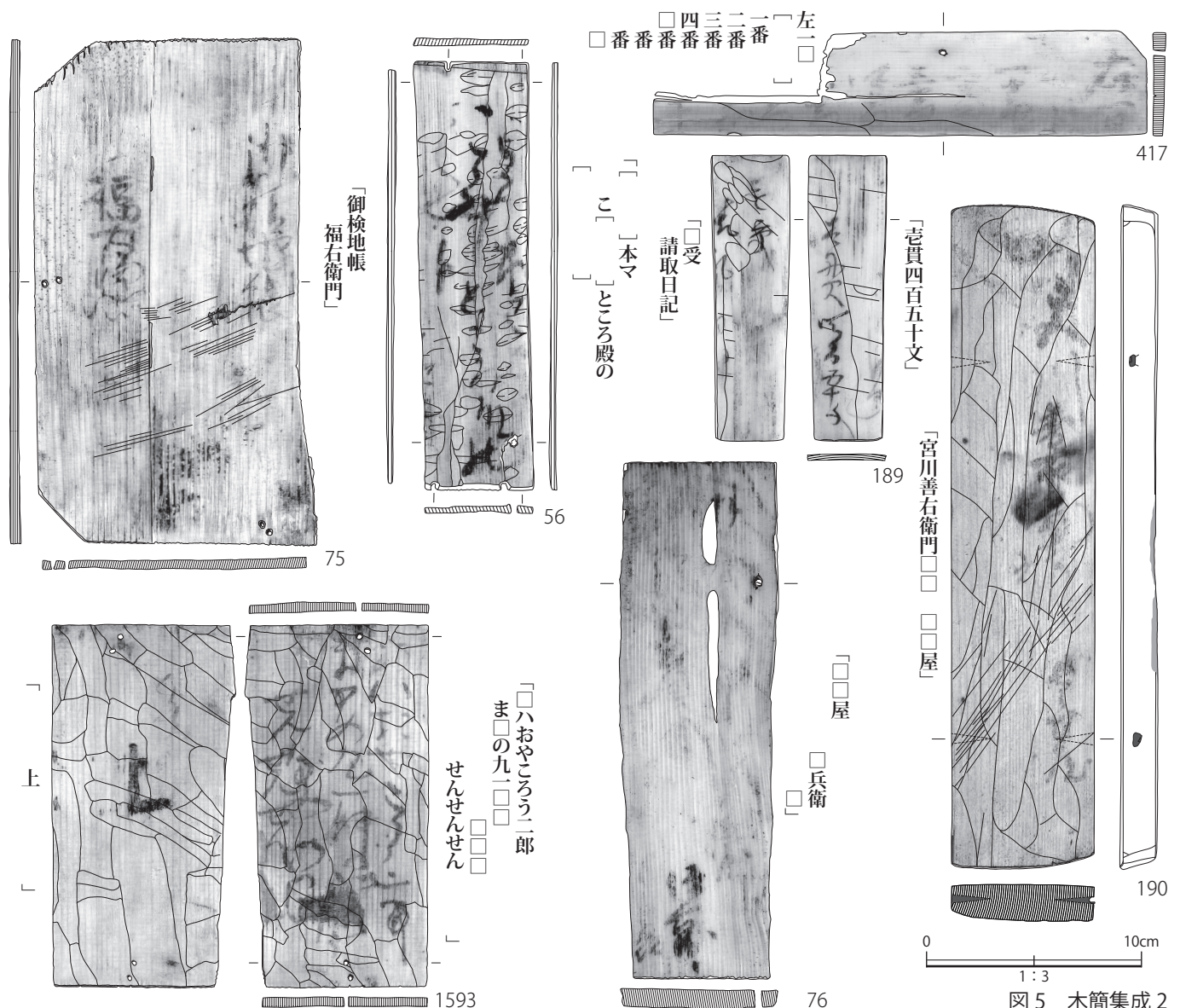


図5 木簡集成2

亀ヶ崎城跡出土の火縄

○16世紀第4 四半期の層から出土



火縄のまとめ方



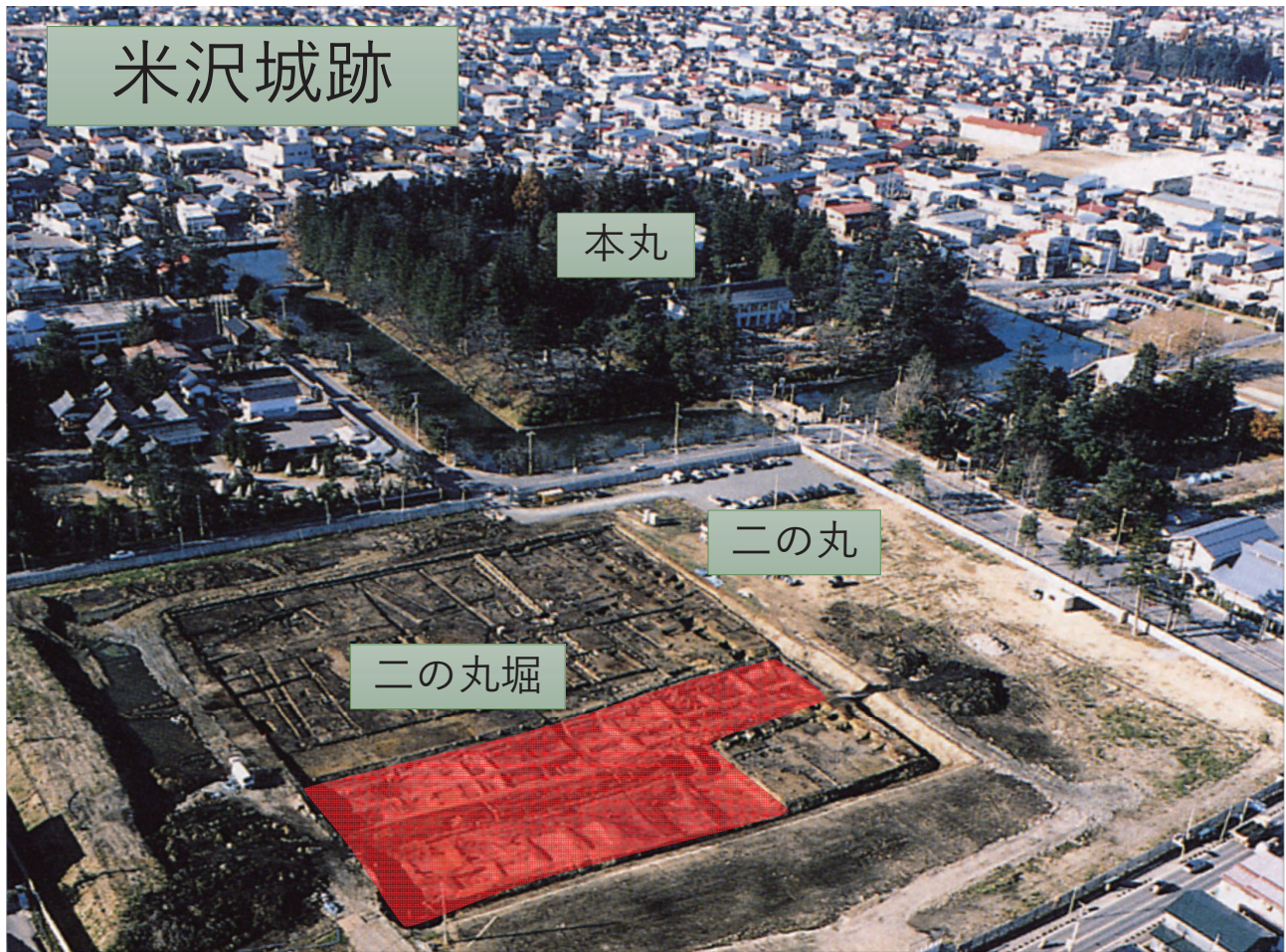
出土品と復元品の比較



亀ヶ崎城跡の木製品

- 戦国時代の城内の暮らしの復元
 - 食事・宴会
 - 遊び
 - 生産
 - 戦い
- 城館を拠点とした物資の動き
 - 軍事物資
 - 贈答品
- 文献史学との比較

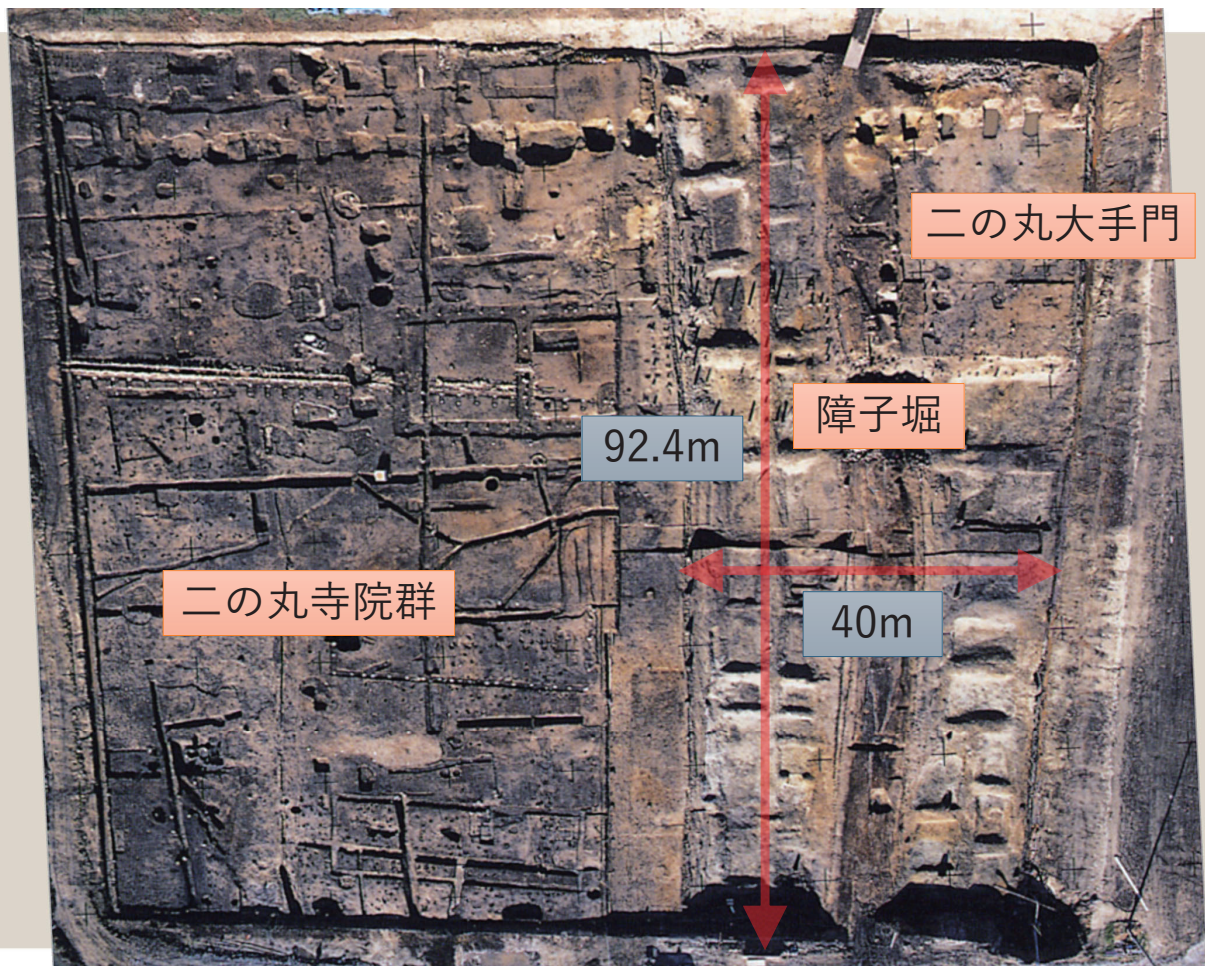
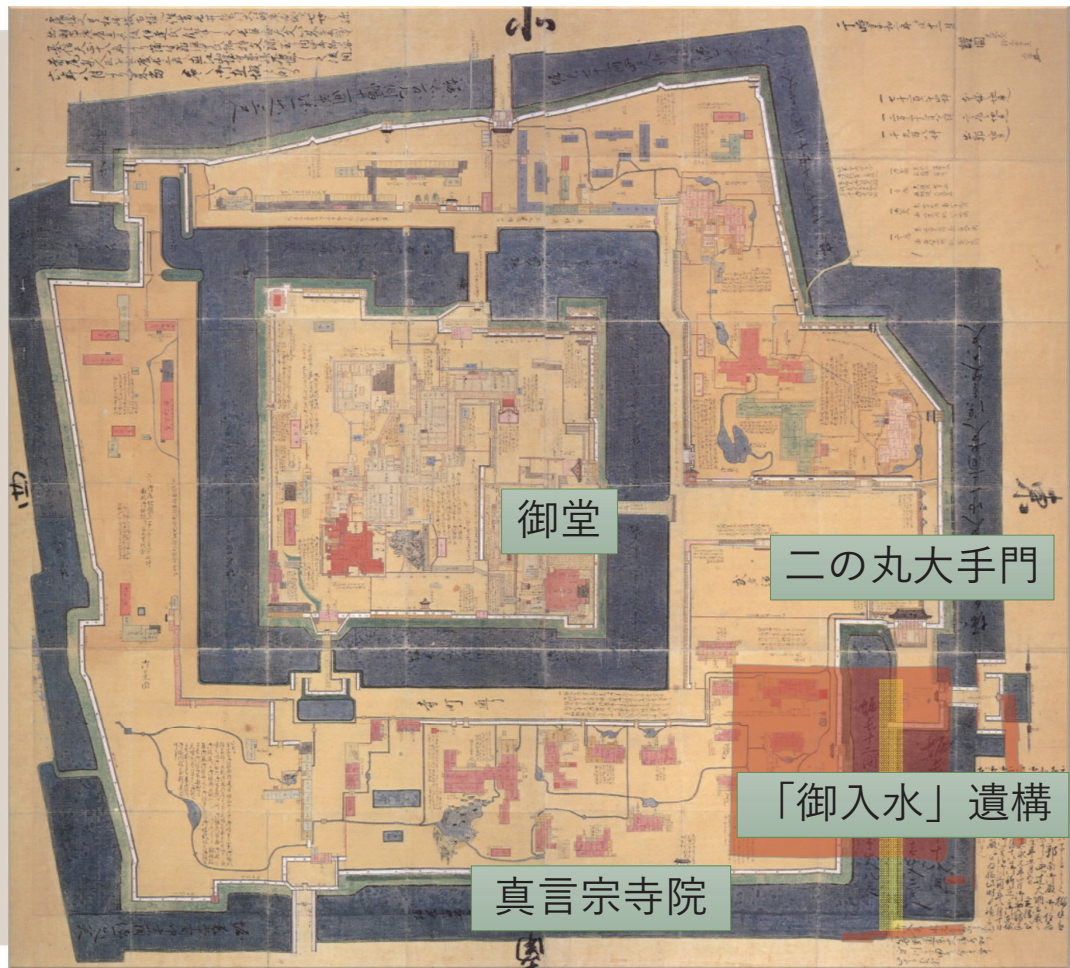
米沢城跡

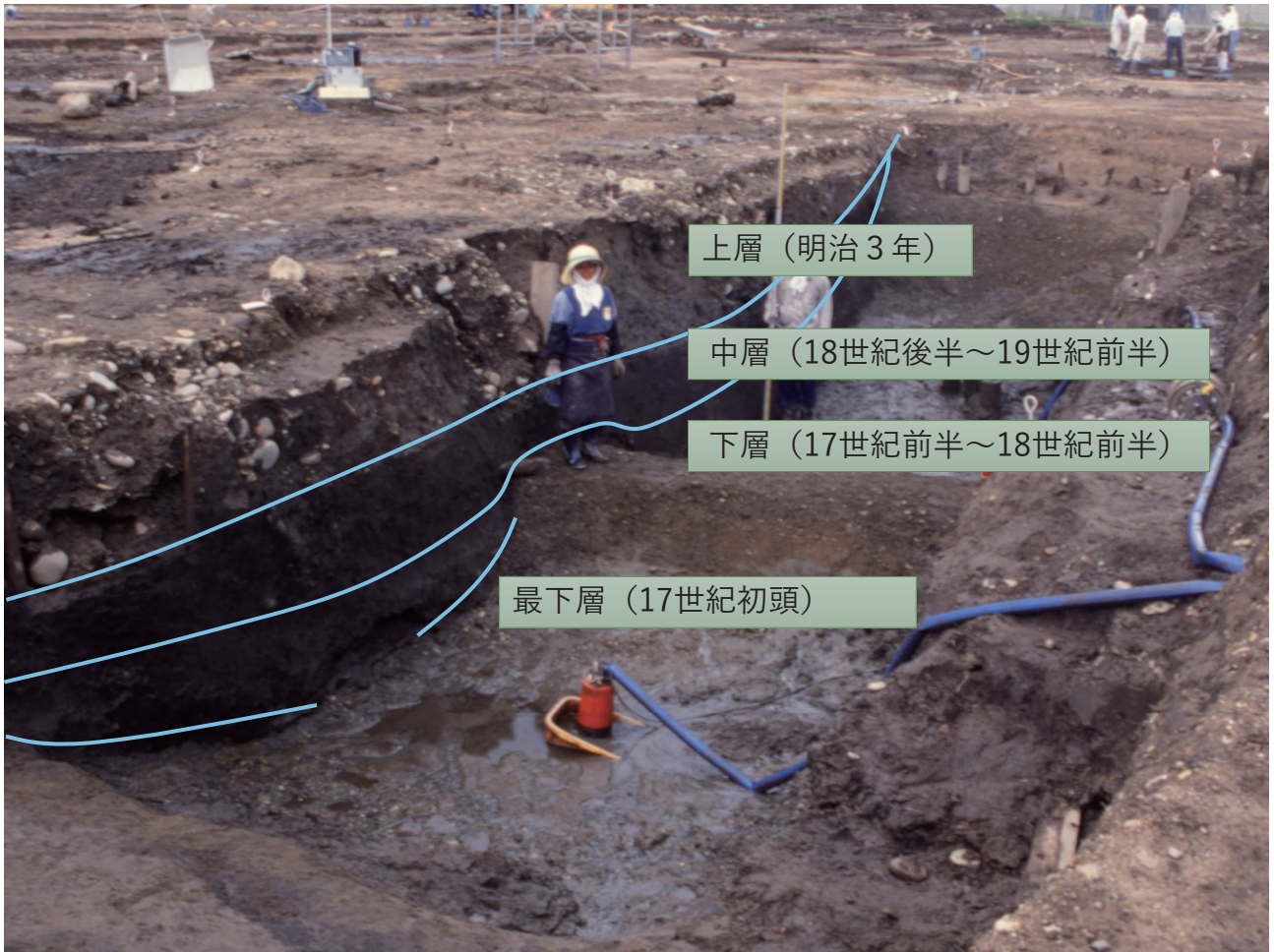


米沢城の歴史

- 天文17年（1548）伊達晴宗が米沢城を本城とする。
- 天正19年（1591）伊達政宗、岩出山へ移封。
- 天正19年（1591）蒲生郷安が米沢城に入る。
- 慶長3年（1598）直江兼続が米沢城主となる。
- 慶長6年（1601）30万石に減封。景勝入部。
- 慶長9年（1604）城内の門・堀・櫓等の整備を開始。
- 慶長13年（1608）東南二方の堀完成。
- 慶長14年（1609）二の丸寺院建立。
- 明治3年（1870）堀、土塁、二の丸寺院破却。

松岬城堞図
享和二年（一八〇二）
米沢市上杉立博物館所蔵



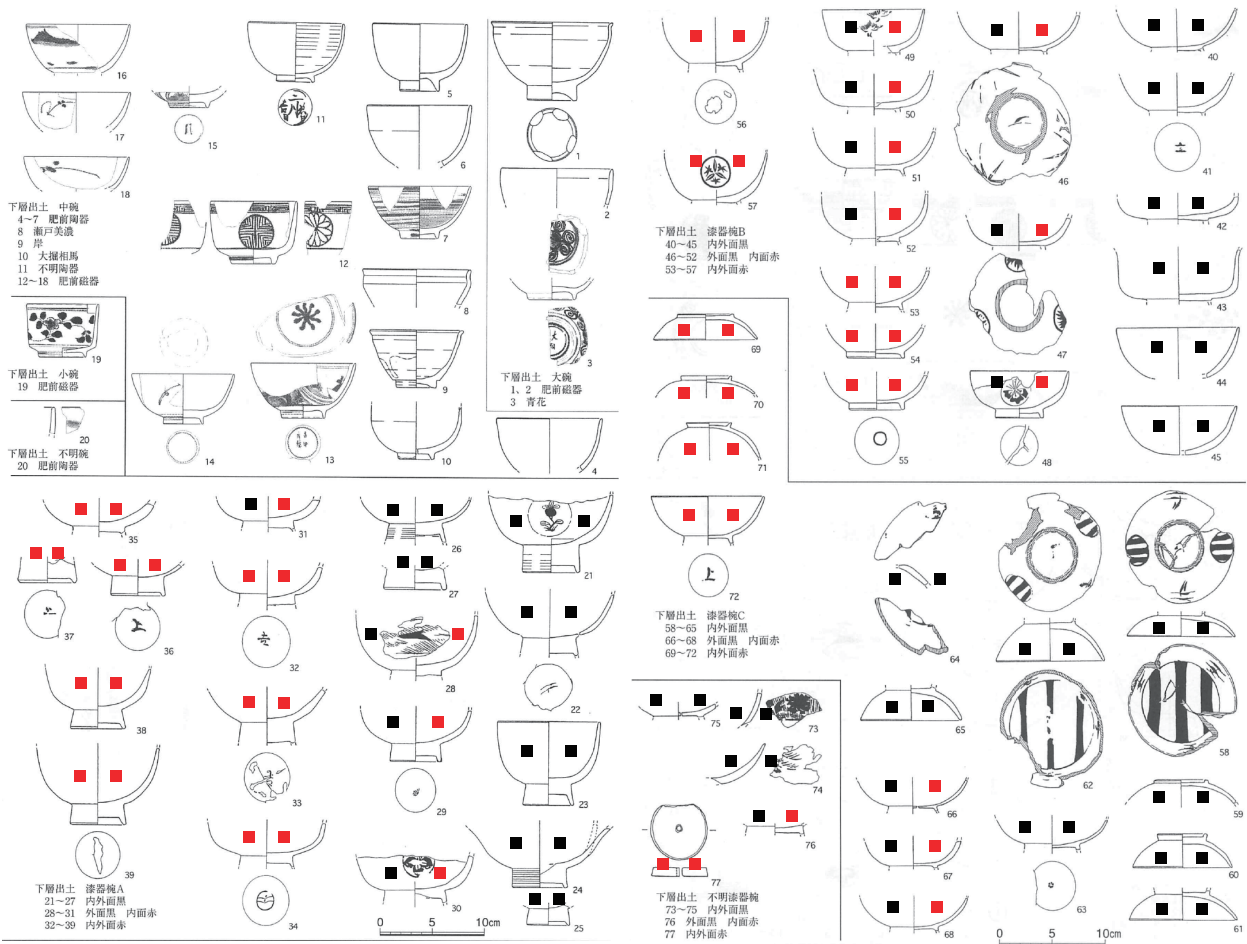


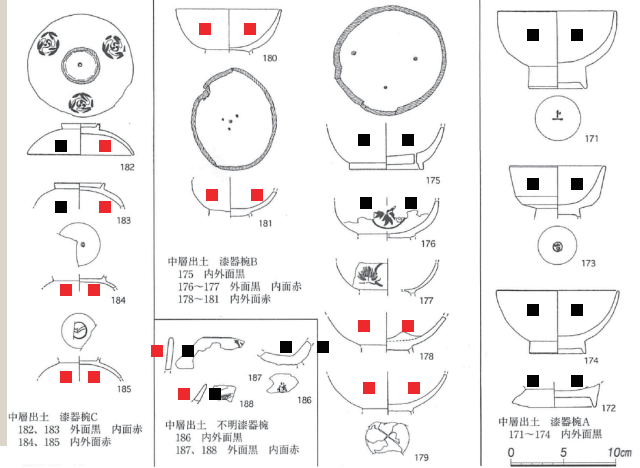
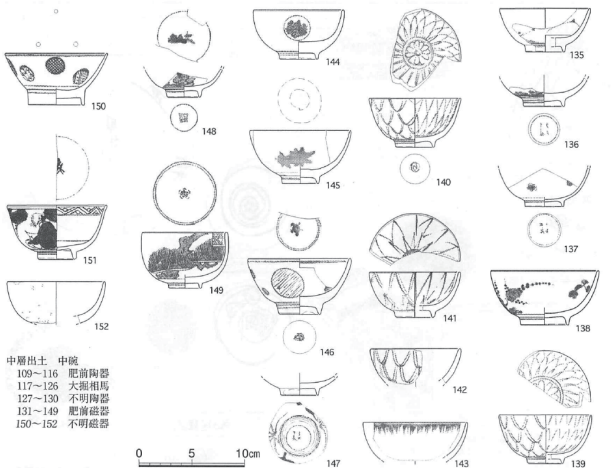
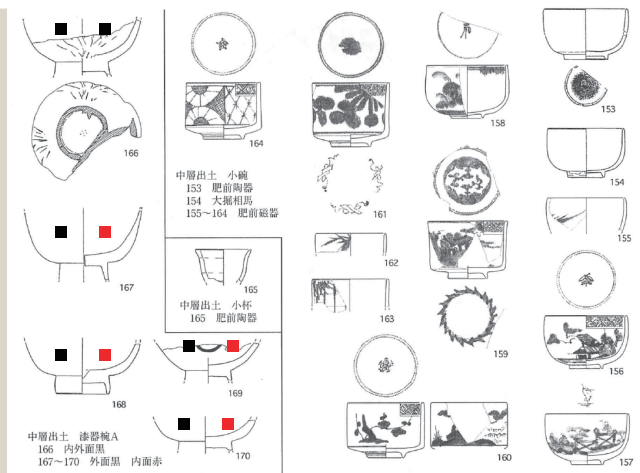
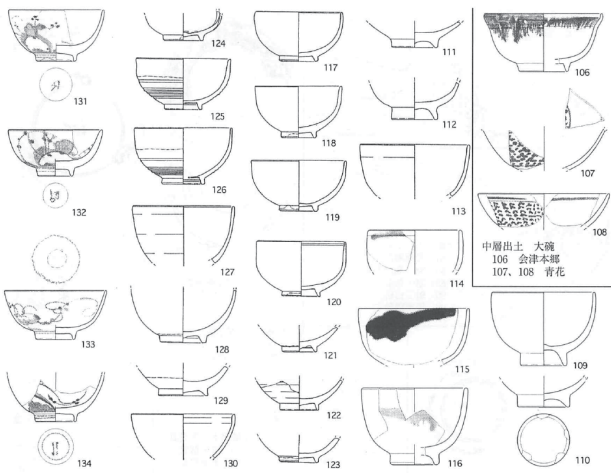
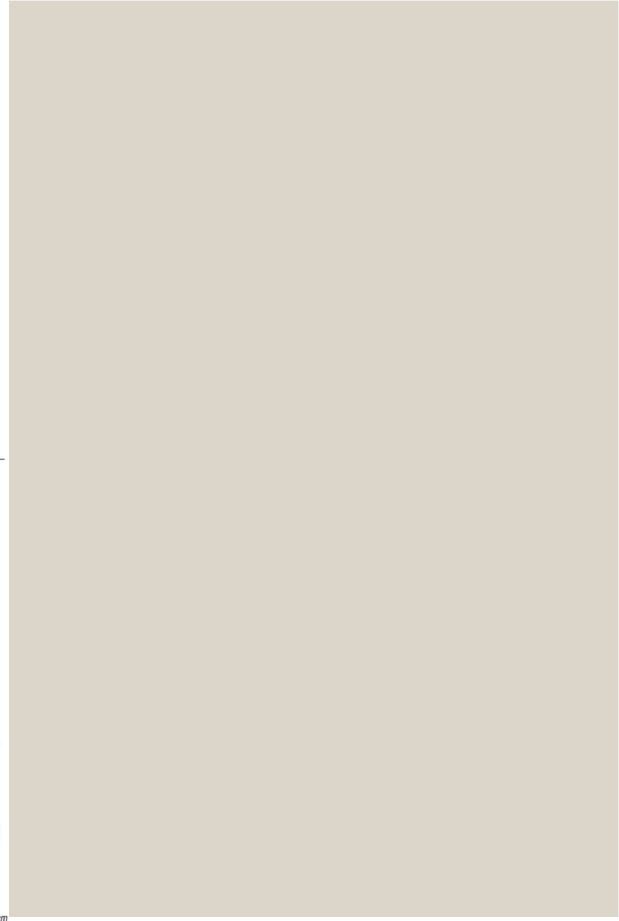
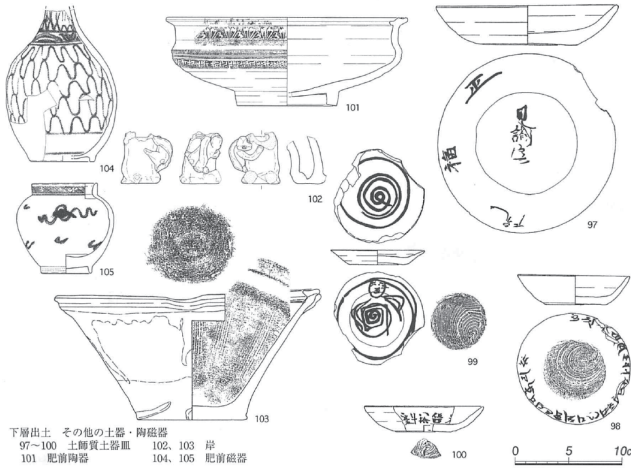
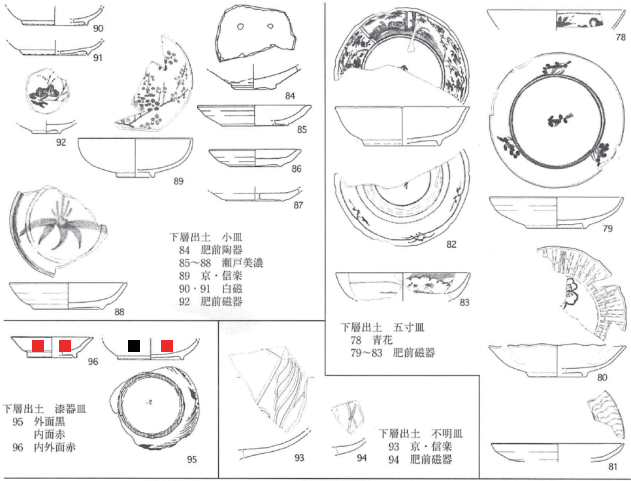
上層 (明治3年)

中層 (18世紀後半~19世紀前半)

下層 (17世紀前半~18世紀前半)

最下層 (17世紀初頭)





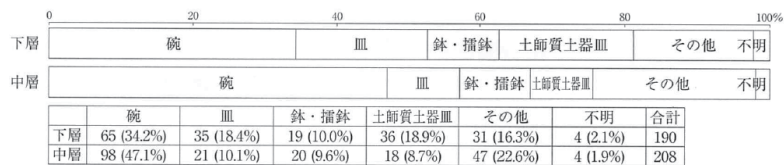
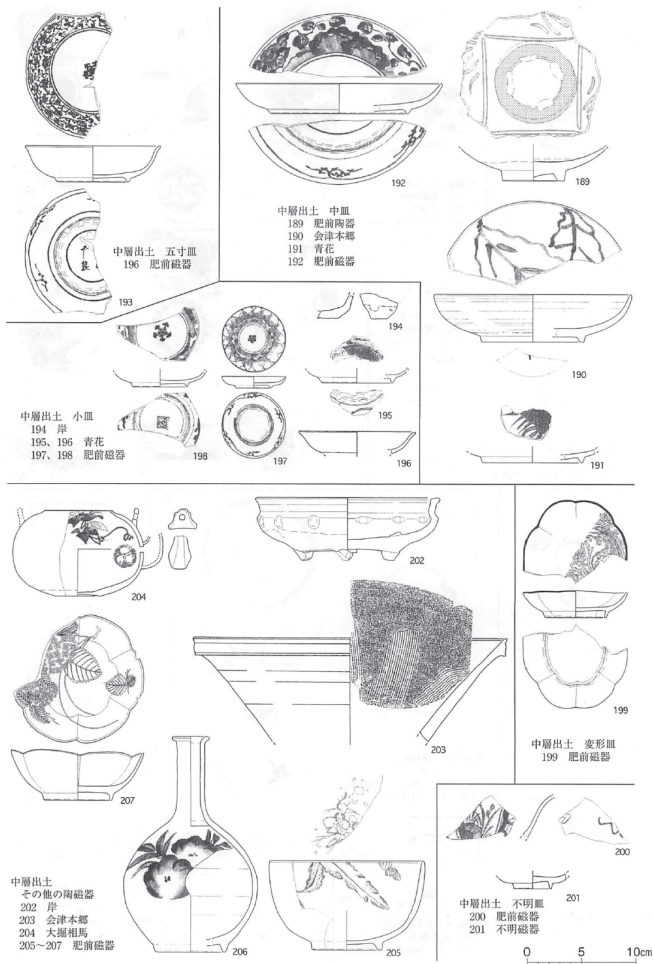


図2 器種組成

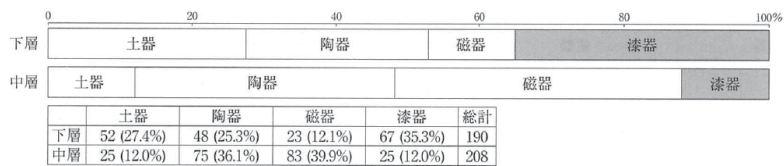


図3 材質組成

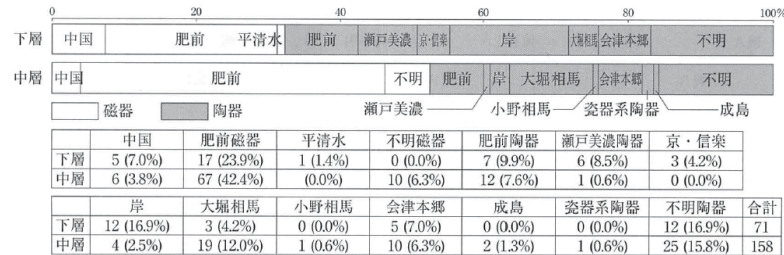


図4 陶磁器の産地組成

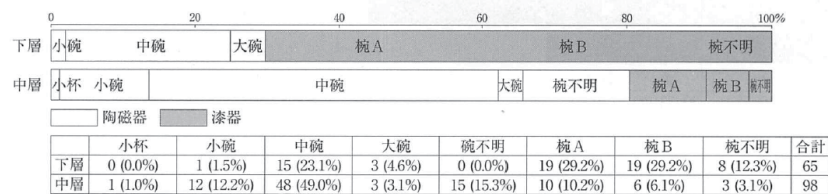


図6 碗の器種組成

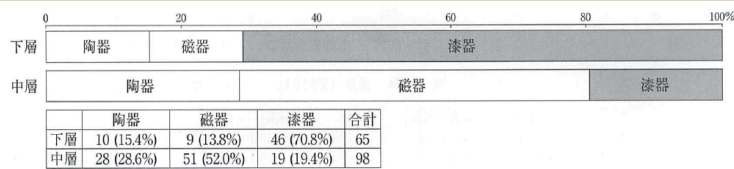


図8 碗の材質組成

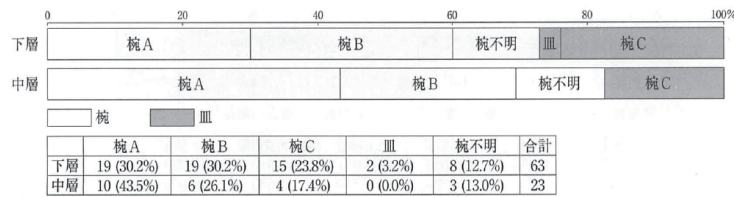


図10 漆器碗皿の器種組成

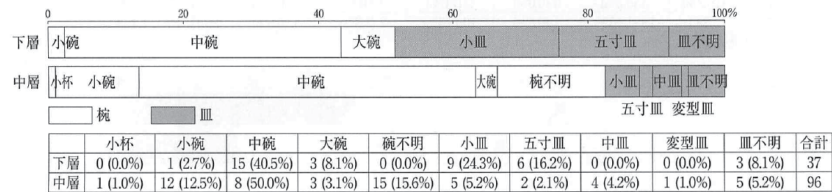


図11 陶磁器碗皿の器種組成

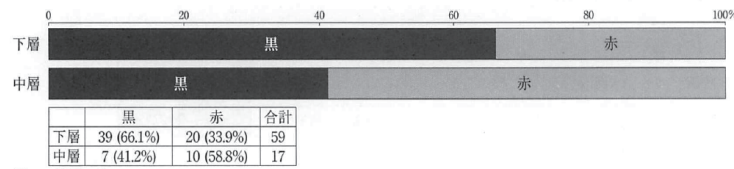


図12 漆器の色

米沢城跡の出土の木製品

- 広大な二の丸堀の調査
- 江戸時代の大量の食器が出土
 - 食膳具が漆器から磁器へ
 - 肥前磁器の流通
 - 漆器が黒から赤へ
 - 漆器の用途の変化

引用参考文献

高桑登2002「山形県米沢城跡の食器組成」『東洋陶磁』第31号 東洋陶磁学会

高桑登2014「山形県酒田市亀ヶ崎城跡出土の「火縄」について」『研究紀要』第6号 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

山形埋文1999『米沢城跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第66集

山形埋文2004『小田島城跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第131集

山形埋文2009『亀ヶ崎城跡第4・5次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第180集